

GIGAスクール構想



iPadで授業が変わる



発行所
常磐南小学校
電話 46-2005
FAX 46-2048
— 第7号 —
2020.11.30

岡崎市教委は、GIGAスクール構想に基づき、校内ネットワーク環境の整備とともに、iPadの1人1台配付を、5、6年生から順次スタートさせた。

iPadの導入で、今まさに学びのスタイルも、学びの質も大きく変わろうとしている。

これまで私たち教師は、子どもたちの意見や考えを黒板に板書し、議論を深めていくという基本的な授業スタイルを大事にしてきた。しかし

2020.11.30

iPad

*学びのスタイルも学びの質も変わる。

校長 都筑 祐一

「K先生のエコ宣言をどう思う？」教師の問いかけに、6年生25人がいつせいにキーボードを叩き始めた。しばらくすると、iPadの画面に全員の見解がリアルタイムで次々と映し出された。

だがどんな考えをもっているのか、瞬時にわかる。共感や付けたし、賛成、反対まで、子どもたちの思考が点から線へとつながっていく。

過日行われた6年生、家庭科の研究授業の1コマだ。

今、それがどこまで必要となるのか。さらに、子どもたちは、当たり前のように教師が書いた板書をノートにとっている。これもまた、iPadで必要なところを写真に撮れば済む話となる。

すでに授業の中では、ミラーリングも、エアドロップも子どもたちは自在に使いこなし、自分の意見や作品を発表したり、情報を交換したりする姿がある。

また、朝の学習の時間にはタブレットドリルを使って、自分のペースで授業の復習を進める姿がある。放課になれば、自分の好きなアプリを使って、個別に学習を進める姿も見られるようになった。

iPadの導入は、一斉授業の学びから、個別最適化の学習へと大きく舵を切る起爆剤になりそうだ。まさに学習者主体の学びへと質的変換を可能にするツールなのだ。

ただ先日、教室でiPadを触りながら、1人の児童がこうつぶやいた。

『iPadはとても便利で面白いけど、長放課や昼放課に外で遊ぶ子が少なくなつて、何だかちょっと...』

iPadを手にしたことで、得るものもあれば、失うものもある。私たち教師は、両者の価値をしっかりと見極めながら、iPadを活用した主体的な学びの実現を目指したいと思う。